

宗教改革主日 埼玉分区合同礼拝



日本ルーテル教団埼玉分区教会

大宮シオンルーテル教会 〒331-0814 さいたま市北区東大成町 1-229

館林聖ルカルーテル教会 〒374-0066 館林市大街道 1-9-5

飯能ルーテル教会 〒357-0033 飯能市八番町 20-9

浦和ルーテル教会 〒330-0051 さいたま市浦和区駒場 1-28-12

2025年 10 月 26日(日)午前 11 時

主催 日本ルーテル教団 埼玉分区

場所 大宮シオン・ルーテル教会

【開会の部】

前奏

初めの歌〔起立〕 382「ここは神の世界なれば」

み名による祝福

罪の告白のすすめ

罪の告白

ゆるしの祝福祈願

詩編交読 詩編 46:2～12

【司】神はわたしたちの^{かみ}避けどころ、わたしたちの^{ちから}力、

【会】苦難のときの^か変わらぬ^{たす}助け。

【司】わたしたちは^{けつ}決して^{おそ}恐れない。

【会】地が^ち姿を^{すがた}変え、山々が^か揺らいで^{やまやま}海の中に^{うみ}移るとも。^{なか}

【司】海の^{うみ}水が^{みず}騒ぎ、^{さわ}沸き^わ返り、^{かえ}

【会】その^{たか}高ぶる^{やまやま}さまに^{ふる}山々が^{ふる}震えても。

【司】大河とその^{なが}流れは、神の^{かみ}都に^{みやこ}喜びを^{よろこ}与える。^{あた}

【会】いと^{たか}高き^{かみ}神の^{せいじょ}います^{せいじょ}聖所に。

【司】神はその^{かみ}中^{なか}にいて、その^{みやこ}都は^ゆ揺るがない。

【会】夜^よ明けとともに、神は^{かみ}助けて^{たす}くださる。

【司】すべての^{たみ}民は^{さわ}騒ぎ、^{くにぐに}国々は^ゆ揺らぐ。

【会】神が^{かみ}御声^{みこえ}を出されると、^だ地は^ち溶け^と去る。^き

【司】万軍の^{ばんぐん}主はわたしたちと^{しゅ}共に^{とも}います。

【会】ヤコブの^{かみ}神はわたしたちの^{ちから}力。

【司】主の^{しゅ}成^なし^と遂げられたことを^み見よ。

【会】主が^{しゅ}この^ち地を^{あつとう}圧倒される。

本日の奉仕者

司式：笠原光見

説教：北川逸英

子どもメッセージ：笠原光見

聖餐補佐：

奏楽：

聖書朗読：

教会の祈り：

アコライト：

受付：

アッシャー：

総合司会(お知らせなど)：笠原光見

午後のプログラム 北川逸英先生の手作りカレー昼食

交流会

第2朗読 ローマ 3:19～28 (新277)

19 さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。 20 なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。21 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。 22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。 23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、 24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。 25 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。 26 このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。27 では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

ハレルヤ唱 [\[起立\]](#)

福音書 ヨハネ 8:31～36 (新182)

31 イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。 32 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」 33 すると、彼らは言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。」 34 イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。35 奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。 36 だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

司) 主のみ言葉です。

全) 神に感謝。

③

み言葉の歌 [\[着席\]](#)

293 「罪あるものをも」

子どもメッセージ

笠原光見

説 教

「あなたたちは本当に自由になる」 北川逸英

信仰の告白

使 徒 信 条

全) われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府に降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりたまいて、生ける人と死にたる人とをさばきたまわん。われは聖霊を信ず。また聖なるキリスト教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン

【奉献の部】

祝福の挨拶

奉献

奉献唱

奉献の祈り

【聖餐の部】

聖餐の歌

262 「みんなでパンをわけよう」

聖餐の序詞 [\[起立\]](#)

その日の序詞

サンクトゥス

設定の言葉

④

主の祈り

全) 天にましますわれらの父よ。願わくはみ名をあがめさせたまえ。み国を来たさせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日ごとの糧を今日も与えたまえ。われらに罪を犯すものを、われらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

平和の挨拶～アグヌスデイ

聖餐への招きと陪餐 **〔着席〕**

聖餐の祝福 **〔起立〕** ～ 陪餐の感謝

【派遣の部】

祝福の挨拶～ヌンク・ディミティス

教会の祈り

祝福

終わりの歌 **〔着席〕** 450 「ちからなる神は」

後 奏

【司】主が^{しゅ}地^ちの^は果てまで、^{たたか}戦^たいを断ち、

【会】^{ゆみ}弓^{くだ}を^{やり}砕^おき^{たて}槍^やを^{はら}折り、^{たて}盾^やを^{はら}焼き^{はら}払^{はら}われる。

【司】「^{たたか}戦^たいを^や止めよ、^し知^しれ、^{かみ}わたしは^{かみ}神。

【会】^{くにぐに}国々^ちであ^{かみ}がめられ、^ちこの^{かみ}地^{かみ}であ^{かみ}がめられる^{かみ}神。」

【司】^{ばんぐん}万軍^{しゅ}の主^{とも}は^{とも}わたし^{とも}たちと^{とも}共に、

【会】^{かみ}ヤコブ^{かみ}の^{ちから}神^{ちから}は^{ちから}わたし^{ちから}たちの^{ちから}力^{ちから}。アーメン

グロリア・パトリ

キリエ

グロリア イン エクセルシス

【み言葉の部】

祝福の挨拶

主日の祈り

全) ^{めづ}恵^{ちち}み^{かみ}深^{せい}い^{せい}父^{ちち}なる^{せい}神^{せい}様^{せい}。聖^{せい}なる^{せい}公^{せい}同^{せい}の^{せい}教^{せい}会^{せい}の^{せい}た^{せい}め^{せい}に^{せい}祈^{せい}り^{せい}ま^{せい}す。教^{せい}会^{せい}を^{せい}あ^{せい}ら^{せい}ゆる^{せい}真^{せい}理^{せい}と^{せい}平^{せい}和^{せい}で^{せい}満^{せい}た^{せい}し^{せい}て^{せい}く^{せい}だ^{せい}さ^{せい}い。御^み子^こイ^こエ^こス・キ^こリ^こス^こトの^こゆ^こえ^こに、^た墮^た落^{らく}した^たき^たは^たき^たよ^ため、^ち誤^ちった^ちと^ちき^ちは^ち道^{みち}を^{みち}示^{しめ}して^{みち}改^か革^{かく}し、^{ただ}正^{ただ}しい^{ただ}と^{ただ}き^{ただ}に^{ただ}強^{つよ}めて^{つよ}て^{つよ}く^{つよ}だ^{つよ}さ^{つよ}い。欠^かけて^かい^かる^かと^かき^かには^か補^{おぎな}い、^{ぶん}分^{ぶん}裂^{れつ}した^{ぶん}と^{ぶん}き^{ぶん}は^{ぶん}、^{また}再^{また}び^{また}一^{ひと}つ^{ひと}に^{ひと}し^{ひと}て^{ひと}く^{ひと}だ^{ひと}さ^{ひと}い。あ^{かみ}な^{かみ}た^{かみ}と^{かみ}聖^{せい}霊^{れい}と^{せい}と^{せい}も^{せい}に^{せい}た^{せい}だ^{せい}独^{ひと}り^{ひと}の^{ひと}神^{かみ}、^{えい}永^{えい}遠^{えん}の^{えい}支^し配^{はい}者^{しや}、御^み子^こ、主^{しゅ}イ^{しゅ}エ^{しゅ}ス・キ^{しゅ}リ^{しゅ}ス^{しゅ}トに^{しゅ}よ^{しゅ}って^{しゅ}祈^{いの}り^{いの}ま^{いの}す。アーメン

聖書朗読〔着席〕

第1朗読 エレミヤ 31:31～34 (旧 1237)

31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。 32 この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であつたにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。 33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 34 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。